

「研修会等名称」

平成 23(2011)年度スノーボード研究会 冬期研修会

場所：ニセコマウンテンリゾートグラ
ンヒラフスキー場

期間：2012年1月17日～20日

1. 研修の内容

研修の対象は大学・短大・専門学校等においてスノーボードの授業を担当している、あるいは担当する予定のある教員である。実技研修においては参加者の技術レベルに応じて4つの班に分かれ、それぞれ自らの技術レベルを向上させるための指導を受けた。指導者は元全日本スキー連盟長野オリンピックスノーボードチームヘッドコーチ、全日本スキー連盟スノーボード専門委員、全日本スキー連盟スノーボード技術委員、全日本スキー連盟スノーボードデモンストレーターの4名であり、日本でも有数の指導者に直接指導を受けることができる貴重な機会である。スキーおよびスノーボードでの指導ではとくに感覚的な表現が多く、指導教本等だけでは十分な理解が得られない場合がある。指導教本に従い、かつ、自らの技術向上を目指すためには、正確な技術論の理解と正しい実践が必要であり、これは学生指導においても全く同じことが言える。これを実践できるようになるための研修が実技研修の主な内容である。また、学生を対象とした授業では、グレンデの滑走技術だけでなく、グラントリックと呼ばれるアクロバティックなボードの操作技術への要求も高くなっている。圧雪されたグレンデだけでなく、新雪滑走やトリックなど様々なシチュエーションを楽しむことがスノーボードの原点であることから、これらを如何に安全に、楽しく教え、実践させることができるかを常に考慮する必要がある。このことを指導者の方々にも理解していただき、その目的に合致した実技指導内容にさせていただいている。さらに、今回は障害を持つ方が参加されたため、障害の程度によって如何に適切な指導を行うべきか、障害者スポーツとしてのスノーボードの可能性について様々な視点から検討することができた。

情報交換会では各大学におけるスノーボード実習の現状報告と問題点や課題等について情報交換を行い、実習全体を如何に安全にかつ効率良く運営することができるか等について議論を行った。さらに、実施場所は各大学によって異なるため、それぞれの実施場所あるいは宿泊施設におけるメリット・デメリット等も報告され、単なるパンフレットや旅行代理店からの情報では得ることができない貴重な情報を得ることができた。この点は実際に実習を実施しなければ判らないことがあり、特に安全面に関する情報は特に重要であり、大変有意義な情報収集ができた。

2. 研修の成果

本学の学外実習はスキー雪崩事故以来中断しているが、新設の地域政策学部には健康・スポーツコースが設置され、カリキュラム中にもいくつかの学外実習の実施が予定されている。来るべき再開に向け、特に安全対策には万全を期すためにも今回の様な研修会等で十分な情報収集と教員の指導能力の向上を行う必要がある。

3. 授業への研修成果の反映状況

上記の通り、再開へ向けての万全なる準備を行う。

学部長	FD委員長	FD委員会	企画・広報課長	係